さっぽろ第２支部　支部だより

あじさい

発行／公益社団法人北海道看護協会　札幌第2支部　令和７年10月

第44号

医療安全研修会・交流会

2025年7月12日(土)

看護師職能委員会では「現場で活かせる転倒転落予防」と題し、札幌市立大学 看護学部 基礎看護学領域教授の檜山明子先生をお招きして研修会を開催しました。当日は、54名の参加があり、転倒転落予防に対する関心の高さが伺えました。

研修会では、「転倒転落予防の考え方を知り、患者の安全と質の高いケア実践について学ぶ」ことを目的に、～なぜ転倒予防するのか～患者にとって必要な転倒予防は何か、入院中だけではなく退院後の自分らしい自立した生活、豊かな生活に向け、患者の視点で支援を検討していくことの重要性を学びました。また、Formsを活用したアンケートで、現場の転倒転落予防の現状を参加者が共有した中で、アセスメントツールの活用の在り方を検討することや、日々の観察と日常生活援助が、アセスメントや予防対策につながることを実感した研修会であり、実践に役立つ考え方を多く学ぶ機会となりました。

交流会では、互いの施設の現状や困りごとなどについて活発な意見交換が行われました。参加者からは「他の病院との意見交換が良かった。今回の講義を実際の病棟で活かしたい」など前向きな感想が聞かれていました。

今後も、実践の場で活かせる研修を企画していきたいと思います。

札幌4支部合同保健師職能研修会

2025年7月26日(土)

「ケアラーを取り巻く課題とこれからを考える～家族丸ごと支援する視点を学ぶ～」のテーマで、昨年に引き続き一般社団法人日本ケアラー連盟理事　中村健治氏にご講演いただきました。

ケアラーの方々が直面する課題は複雑・深刻化しており、18歳未満のヤングケアラー、働きながら介護をするワーキングケアラーなど、地域で孤立し支援の手が届きにくい状況が顕在化しています。地域共生社会の実現を目指し、ケアラーが取り残されることなく、自分の人生を主体的に生きる権利を守るため、支援体制の整備が進められつつあります。

本研修会を通じて、ケアを必要とする方だけでなく、日々ケアを担うケアラーの方々にも光を当て、その思いや状況を尊重しながら、地域全体で支えていくことの重要性を再認識することができました。グループワークでは、専門職として家族に踏み込むことへの躊躇、日中の訪問時間は登校等によりケアラーに会えない、会えたとしてもケアを受ける家族が同席する状況では、核心に触れる会話が困難など、積極的な意見交換がされました。ケアラー支援は、特別な取り組みの中で行われるものではなく、日常の実践の中で積み重ねられるものです。一人ひとりが「誰かをケアしている誰か」の存在に気づき、寄り添い、声をかけ、つながりを紡いでいく―― その積み重ねが、家族全体を支える地域づくりへとつながることを学ぶことができました。

働き続けられる職場づくり推進委員会研修会

2025年8月2日(土)

ACU大研修室にて、こころとからだのカウンセリングルームsmacc代表・佐高葵月代先生をお招きし、働き続けられる職場づくり推進委員会主催の研修「看護の現場で活かす自己肯定感とマインドフルネス　～呼吸からはじめるセルフケアと勇気づけの習慣～」を実施いたしました。ハイブリット研修として実施され会場39名オンライン32名の参加がありました。

研修は参加型で行い、自己肯定感の育て方やマインドフルネスについて講義頂き、看護の現場で職業人として働き続けるための考え方を学ぶことができました。また、困難に遭遇した時にリラックスするための呼吸法、ストレッチをおこないました。佐高先生の体験を講義の中に取り入れ終始楽しい雰囲気で行われました。質問と感想も多数寄せられました。自己肯定感が低いと感じている方や、気持ちが沈んだときの対応などを丁寧に先生に回答していただきました。それ以外の質問に関しても、後日メールにて返信していただきました。今後も研修を検討・企画し看護職として働き続けられる様に支援できたらと考えます。

札幌4支部合同助産師職能研修会

2025年8月23日(土)

札幌４支部合同で助産師職能研修会「乳幼児の成長発達を促すケア～産後ケアの充実のために～」をテーマに、ハイブリッド形式で開催いたしました。当日は、北海道内各地から98名の参加があり、盛況のうちに終了いたしました。

第１部では、札幌医科大学附属病院　産科周産期科（新生児）坂井先生より、新生児から生後1か月未満の乳幼児に対するフィジカルアセスメントについてご講義いただきました。

第２部では、札幌市立大学 小児看護学領域 小児看護専門看護師牧田先生より、生後1か月から1歳までの乳児の成長発達を促すケアについてご講義いただきました。

両講義とも、乳幼児の異常の早期発見や成長発達の特徴と支援方法について、日頃の産後ケアの現場で疑問に感じている点に即した内容であり、すぐに実践に活かせる学びの多い研修となりました。

参加者からは、「頭の形に関する対応」や「出生後の末梢酸素濃度の測定方法」などの質問も寄せられ、理解を深める貴重な機会となりました。

次年度も、より充実した内容と開催時期を検討し、皆さまにとって有意義な研修を企画してまいります。

人材育成研修会

2025年8月30日(土)

札幌第２支部教育委員会では「多様な価値観を理解した関わりと人材育成」というテーマでWeb研修を開催しました。

今年度も講師に精神科認定看護師・精神看護専門看護師・認定看護管理者であり、教育やコンサルテーションなど様々な施設で実践されている、株式会社ここからの村本好孝先生をお迎えました。当日は、83名の参加があり関心の高さが伺えました。

研修では、村本先生の貴重な体験談を交えながらお話して頂きました。人材育成には傾聴と共感のバランスが大切である事、対象（相手）が変わるには“自由さ”と“感動”が必要であり、効果的な育成には肯定的コミュニケーションが必須であることを学びました。また、発達障害はそれ自体が問題ではなく、あくまでも多様性の１つであるという認識に留め、対象と協働するために「何をどのように学ばせるか」を考え、“主体的”で“対話的”な関わりとなっているかを評価する大切さを学びました。

今回の研修を通して、様々な特性をもつスタッフと関わるための基本的な知識や姿勢について学び、自身の行動を振り返る機会となりました。講師の先生をはじめ、参加された皆様に心より感謝いたします。これからも、ニーズに合った研修を企画していきます。

編集後記

10月に入り朝晩の空気がぐっと冷たくなり、冬の訪れを肌で感じるようになりました。日中との寒暖差が大きくなるこの季節は、体調を崩しやすく、患者さんや利用者さんへの配慮が一層求められます。また、インフルエンザや感染症への備えも少しずつ意識し始める時期となりました。私たち自身も、忙しさの中でつい自分の体調管理を後回しにしがちですが、どうかご自身を労わる時間も忘れずにお過ごしください。

広報出版委員　M.I.